

平成 29 年度茨城県文化審議会 議事要旨

1 日 時 平成 29 年 9 月 26 日（火）13 時 30 分から 15 時

2 場 所 県庁 9 0 1 共用会議室

3 出席者

（委員）

垣内恵美子委員長，能島征二副委員長，岩本郁子委員，臼井英男委員，尾崎正明委員，小田部卓委員，菅野幸子委員，鈴木暎一委員，根本悦子委員，野口不二子委員，幡谷史朗委員，松原勢津子委員，水庭久勝委員，山口茂徳委員

（県）

近藤生活環境部長，潮田参事兼生活文化課長 等

4 議題

- 1 文化振興計画に基づく施策の取組状況について
- 2 文化振興計画の進行管理について

5 資料

資料 1 文化振興計画に基づく施策の取組状況について

資料 2 文化振興計画の進行管理について（案）

参考資料 社会生活基本調査結果【文化鑑賞や活動を 1 年間で経験した割合】

6 会議経過

（1）開会にあたり，生活環境部長から挨拶。

（2）垣内委員長が議事進行を行い，事務局から文化振興計画に基づく施策の取組状況について，資料 1 に沿って説明が行われた。

委員の主な意見等は以下のとおり。

- ・次世代を担う子どもたちの育成に食文化の普及活動を組み込んで欲しい。
- ・県民企画公募事業は非常にいい事業と思うが，漠然としすぎていて，どのように事業展開していくのかが分からない。
- ・祭りのお囃子の練習の音がうるさいと住民から苦情があり，練習にも苦慮している。このような状況で，今後，お祭りを続けていけるのか不安に感じている。これから子どもたちが伝統文化に参加してくれるのか期待できない。

(3) 事務局から、文化振興計画の進行管理について(案)、資料2に沿って説明が行われた。委員の主な意見等は以下のとおり。

- ・「アンケートによる意見」によって評価を得たいとあるが、例えば県民文化センターでのアンケート回収率は平均どのくらいなのか。(→回収率は概ね3割程度)
- ・「社会生活基本調査」では、本県の文化鑑賞の全国順位は上がってきているが、文化活動が下がっている。この背景について推察できる原因は何か、また、活動が下がっているのであれば、文化振興のために重点的に何らかの形で指標に加えて欲しい。
- ・文化を親しむうえで支障になっていることの原因に、「文化に関する情報が少ない」「鑑賞したり参加したい活動が身近にない」とあるが、これらは努力次第で数値が上がるものではないか。
- ・訪日外国人観光客が2,000万人を突破し、観光客のほか留学生等は日本の文化、特にアニメに高い関心を持っている。日本人だけでなく、外国人の観光客が喜ぶような、未来型の文化振興を考えてほしい。
- ・事業評価については、定性評価や定量評価とあるが、基準となる指標、指数を数多く広げて取り上げていただきたい。アンケートの回収の話が出ていたが、例えばスマートフォンを使って回答するなどのIT化についても検討してほしい。

各委員の意見を垣内委員長が以下のとおり集約。

- ・アンケートの回収率をどうやって上げるか、あるいは、その方法論として、ITを上手に活用するような具体的な指摘もあり、また、長く行っている事業については、その成果も指標の中に盛り込んでどうか、国際的な視点、外からの視点も入れてはどうかとの意見もあった。文化審議会委員の方々はそれぞれの分野のリーダーでもあり、多彩で知見の豊富な方々なので、事業の展開に関しては、委員の協力を得ながら行政のほうで進めて欲しい。

審議の結果、案のとおり決定され、平成29年度から進捗状況等を把握し、事業効果を検証、審議会において内容を評価することが承認された。